

知床財団・知床自然センター30周年記念 知床アウトドアフィルムフェス 初開催！

- 文 - 秋葉圭太 公園事業係長

会場：知床自然センター（斜里郡斜里町宇字岩宇別531）
日時：10月13日（土）11:00-18:00 / 10月14日（日）10:00-16:00



ABOUT SOFF (Shiretoko Outdoor Film Festival)
コンセプト「アウトドアを、文化に。」
○次の30年へ向けて、新生・知床自然センターのイメージを伝えます。
○アウトドアをテーマにした映像表現などで賑わいを創り、秋の知床観光を盛り上げます。
○アウトドア活動・フィールドの保全に取り組む関係者のつながりを深めます。2018年のテーマは「知床の自然と手をつなごう」です。

アウトドアを、文化に。

1. 背景——30周年を機に

ここ数年、私たちの活動拠点であるホロベツと知床自然センターが急にあわただしくなってきました。2015年からは施設のリニューアルが始まり、2017年からは、「四季・知床」の後継となる大型映像の更新プロジェクトがスタートしています。また、センターを起点とした散策路の整備・公開も進んでいます。これらの取り組みは、一見ばらばらにも見えますが、やるべきことは結局ひとつのお題に収束します。自然センターからホロベツ地区、知床全体へ同心円のように広がる私たちの活動の未来を描く、という作業です。

2018年秋、知床財団と知床自然センターは30周年を迎えました。このタイミングに私たちは知床アウトドアフィルムフェス



（SOFF）というイベントを初開催しました。大仰かもしれませんが、これは私たちの進む未来についての宣言ともいえるものでした。

2. コンセプト「アウトドアを、文化に。」

今後、知床の自然をどのように保全するのか。もしくはどのように活用するのか。何度も繰り返される結論のひとつは、知床自然センターが元気で魅力的であり続けなければならないということです。そのため、「多くの人たち」と「知床の楽しみや可能性」を分かち合う場が必要だと気付きました。ここにしかない、ここだからこそできること。そんな考えから「アウトドア」と「フィルム」をコンセプトとして選び出し、「アウトドアを、文化に。」をイベントのテーマに掲げました。ホロベツ地区こそ知床のアウトドア活動にふさわしい拠点であり、日本最大級のスクリーンを有するシアターは他にはない強みです。ここに知床の自然を愛する内外の人々が集い、交流し、新たな楽しみや可能性を発信することができれば、知床自然センターの明確な価値づけができ、そして「アウトドアを、文化に。」というコンセプトがまさにぴったりとはまってくるのだと思います。

こんなことやりました！

知床でのアウトドア活動は、驚き・厳しさ・美しさなど多くの気付きを与えてくれます。その可能性とフィールドの保全を伝え、知床のみならず世界中の自然を理解し、愛し、楽しむきっかけにこのイベントがなり得れば、という思いから次のようなプログラムを組み立てました。

SOFF PROGRAM

- ① フィルムプログラム
- ② アウトドア体験プログラム
- ③ アウトドアマーケット
- ④ Food & Drink



① フィルムプログラム

- MENU -

- FILM ①： バンプ・マウンテン・フィルム・フェスティバル・イン・ジャパン (BANFF)
- FILM ②： フェスオープニング&モニター上映会「今津秀邦 知床を撮る！」
- FILM ③： Artist in SHIRETOKO/Special Nature Special Experience

映像ホールの新名称
知床自然センター MEGASCREEN
KINETOKO
SHIRETOKO NATIONAL PARK NATURE CENTER MEGA SCREEN KINETOKO
「KINETOKO」の発表もここで披露目！



2020年春の公開を目指し、現在鋭意制作中のオリジナル作品を紹介するプログラム「今津秀邦 知床を撮る！」も実施。監督の代表作「生きとし生けるもの」特別編の上映と新作のモニター試写会を行いました。お笑い芸人アップダウンさんやシンガーソングライターの児玉梨奈さんも登場し、監督とともに贅沢な時間を演出しました。



カナダのバンフ国立公園で毎年開催される世界有数のアウトドア映画祭「BANFF」のワールドツアーを知床で開催。道内最大級のスクリーンでの上映は迫力満点！当日は地元の方を中心にたくさんの来場者で会場が埋まりました。



フィルムプログラム「Artist in Shiretoko / Special Nature Special Experience」の様子。プレゼンターは、SOFFのクリエイティブディレクターを務めた初海淳氏。知床を訪れるアーティストや地元在住作家の短編作品をオムニバスで紹介し、彼らの視点を通して知床の奥深い魅力に触れることのできるプログラムでした。知床財団職員、能勢峰編集による知床のヒグマ調査現場をテーマにした作品も登場！



②アウトドア体験プログラム

知床を拠点に活躍する自然ガイドさんの力を借りて、自然センター周辺のフィールドで楽しむアウトドアプログラムを実施しました。

— MENU —

- 大人も子供も空中散歩！
「ツリーイング体験（木登り）」
- 秋の森を歩こう！
「森づくりの道ツアー
（トレッキング）」
- 紅葉サイクリング！
「知床峠ダウンヒルツアー」
- Sky Light / Star Night



ツリーイングに参加する地元の子どもたち。



会場内には空中テントも設置。子どもたちに大人気でした。



森づくりの道ツアー。フェス期間中は気持ちの良い秋晴れに。森づくりの道では、かつて開拓時代に使っていた建物でフェス2日間限定の「小屋Café」を開店、コーヒーもサービスしました。



Star Nightの様子。地元関係者を中心にミーティング形式でナイトイベントを企画・実施し、火を囲みながら今後のSOFFの可能性や知床の未来について星空の下で語り合う貴重な場となりました。来年のSOFFでは一般の方にも参加いただけるような仕掛けにできないか、鋭意検討中です。

④ Food & Drink

地元斜里産のにんじんやジャガイモ、サケを使ったカフェメニューが登場。北海道産のワインも花を添えて、フェス感満載のフードコーナーになりました。



Café で提供した「知床流水コーヒー」。館内は終始コーヒーの香りが立ち込め、スタッフは昼食も食べずにひたすらコーヒーをドリップし続けました！



「知床の海と山のワインプレート」。斜里産ジャガイモのピシソワーズやスモークサーモンマリネなど知床満載の一皿に。



これから

イベントの企画から準備、当日に至るまで地域の観光の現場で活躍する方々からの支援や協力はとても大きな力となりました。フェス全体のコンセプト作りやアーティストとの



前日のスタッフミーティングの様子。これだけたくさんのスタッフがSOFFを支えてくれました。

連携には、知床観光ブランドディングチームが大きな役割を果たしました。会場づくりには、冬のイベント「知床流水フェス」のノウハウが随所に活かされました。アウトドアプログラムは地元ガイドの企画や引率がなければ実施できませんでした。アウトドアマーケットは、普段から知床財団へご支援頂いている企業の方たちが率先して知床に足を運んでくれたことで実現されました。

地元の方々、役員職員、観光関係の方、知床財団の支援者など多くの人たちの力を集結し、一人一人ができる力を出し切って、このイベントを実現することができたのです。

SOFFは単発で燃え尽きるイベントではありません。終了後の話題はもつぱら「次をどうするか」ということでした。第1回は、ここ数年続けてきた取り組みの集大成であると同時に次に繋がるアイデアや関係性を紡ぐ機会でもあったのです。そのような意味で、SOFFは連続ドラマのようなものと考えています。

今は、次回のシナリオを書き出したばかりですが、第2回に向けての備忘録をいくつか書き留めて筆をおきたいと思えます。

③アウトドアマーケット

知床自然センターの正面に「アウトドアマーケット」会場が出現。知床財団の法人会員、フェニックス様、Y S インターナショナル様（フェールラーベン）、ゴールドウィン様（THE NORTH FACE）のブース出展のほか、キャラバン様からも商品をご提供いただき、観光客の方ももちろん、地元の皆様にもたくさんご来訪いただきました。



① SOFF を「結」の場に

準備作業の最中、「結」や「普請」と呼ばれる言葉を出しました。地域課題をお金ではなく知恵と労力を融通し合うことで解決する、古くからある地域社会の互助システムです。

SOFF が現代の結の場になればと思います。フェスに関わったサポーターや来場者が仲間として繋がり、互いの知恵や労力を融通しあうことで、知床の課題解決の大きな力となるイメージです。

② SOFF を大きな器に

SOFF は、ホストとゲストが相互に影響しあい、知床という地を表現し、発信する場と考えています。リニューアルした映像ホール「KINETO KO」をフル活用し、知床発のオリジナル作品発表の場として活用し、SOFF は、多様な表現や楽しみを受け入れる器として成長します。

③ 「楽しさ」をすべての基盤に

SOFF は、関わる全ての人が楽しいと思う場になることを目指します。ホストもゲストも楽しければ、多くの人が集い、継続するはず。ここでの「楽しさ」とは、自己を表現すること、それが認められること、新しいことへの挑戦、自分と他者が繋がること、驚きや感動に触れること、こうした時に得られるあらゆる喜びの感情の総称です。

楽しさを共通の基盤としたコミュニケーションやしくみづくりは、人や社会を変える可能性の増大にもつながります。